

日本周辺で震度5強以上の地震は、年に15.5回起こっています。

地震時の注意点を書いてみました。

副会長 江尻 哲二

10月7日 22:41 に千葉県北西部を震源とした M6.1、最大震度 5 強の地震がありました。緑園は震度4でしたが、緊急地震速報が鳴り響き、意外と大きな揺れを感じた方が多かったようで、寝入りばなを起こされ、心配された方が多かったのではないのでしょうか。

幸い横浜市内での最大震度は 5 弱でしたので、避難所開設や安否確認はしませんでした。

11月1日 6:14 茨城県北部を震源とする M5、最大震度 4 の地震があり、緑園では震度1でしたが、緊急地震速報がなり響き、寝覚めさせられました。

10月の地震で、横浜市では震度4の地域で、室内での転倒、タンスの下敷きでケガをした人も発生しています。また、首都圏では、鉄道路線で遅れや運休で 37 万人の影響、郵便物は高速道路通行止めなどで配達遅れ、日暮里・舎人ライナーの電車が脱輪し、復旧に数日要しました。帰宅難民が多数発生、避難所も開設、水道管の漏水、3人の重傷者を含む32人の怪我人発生、7万か所にも及ぶエレベーターが停止などが起こっています。

この地震は最大震度5強ということでしたが、首都直下地震は震度6強～7と想定されています。日本列島周辺では、震度 5 強以上の地震は、年に 15.5 回、1ヶ月に 1 回以上発生しています。

地震は、何時起こるか分かりません。我々が生活している都市部で発生する地震発生時、特に注意すべき点を、皆さんご承知のこととは思いますが、挙げてみます。

1. 倒壊/落下/転倒/移動/飛散

古い建物の倒壊や、什器類の転落、看板/天井などの落下、家具類の移動、ガラス飛散に注意。頭を覆い飛散/落下しそうなものから離れる。

2. 交通機関内での危険

電車やバスの中では緊急停止などに注意。緊急地震速報が鳴ったら、スマホを見るより、つり革などにつかまる。ホーム落下にも注意を。

3. 火災

通電火災もあるので、停電発生の場合は、その後に火災が起きないかを疑って行動。

4. 人混み

人混みに巻き込まれないよう冷静に行動。

5. 暗闇

夜間なら、街並みは停電で一気に暗くなるため、いろいろな危険が考えられる。周囲の状況を確認し、安全な場所で一時避難。水道管の破裂で、水が噴き出したり、道路が陥没したり路肩が崩れている可能性もあります。

6. 閉じ込め

エレベーターの閉じ込めを避けるには、まず全フロアのボタンを押して、止まった階で降りる。閉じ込められても、無理にドアを開けたり、天井から逃げだそうとはせず、その場で救助を待つ。平時から飲料水、ライト、簡易トイレなど防災グッズはバッグに入れておく。部屋などに時込められても、揺れが収まったら、ドアを開け、出口を確保しておく。

7. トイレの被災

地震発生後から公衆トイレは長蛇の列に。水道管の被災により、多くのトイレが使えなくなる事態が想定される。簡易トイレなどの自宅での備蓄と普段から防災グッズとして持ち歩くことが大事。

8. 有毒ガス

特に化学薬品を扱う工場内やその近くでは、有毒ガスにも注意。地震後にガス漏れがないかを疑い、異臭がしたら、窓を開けるなど通気を確保し、安全な場所に移動して通報。家庭などでも、非常用発電機の一酸化炭素には十分注意し、屋内では決して使わない。

9. 都市部では、帰宅困難それ自体が大きなリスク。日頃から歩きやすい靴とともに、水、ライト、簡易携帯トイレ、スマートフォンの充電器、医療用品など防災グッズを持ち歩く。

以上